

〔団体の概要〕(NGO/NPO用)

団 体 名	(財)京都市ユースサービス協会 京都市東山青少年活動センター 「東山おもちゃの病院」		
所在地	〒605-0862 京都市東山区清水五丁目 130-6 東山区総合庁舎 2F TEL: 075-541-0619 FAX: 075-541-0628 E-mail: fromeast@jade.dti.ne.jp		
ホームページ	http://www.ys-kyoto.org/higashiyama/		
設立年月	1999年 6月		
代表者	京都市東山青少年活動センター 所 長 山岡 信行 (担当職員 磯部 さざみ)	担当者	ボランティアスタッフ 芝野 晴彦 瀬尾 和志
組 織	スタッフ 10 名 (内 専従 0 名)		事務所 <u>あり</u> ・なし
	会員制度 (あり・ <u>なし</u>)	正会員 名 (内訳: 個人 名 / 団体・法人 名) 賛助会員 名 (内訳: 個人 名 / 団体・法人 名) その他会員 名	
設立の経緯	「東山おもちゃの病院」は、京都市の外郭団体として、青少年活動のサポート事業をしている(財)京都市ユースサービス協会 京都市東山青少年活動センターが、子どもと関わることや、環境に関心のある青少年のボランティア活動として立ち上げた。		
団体の目的	子ども(家族)に壊れたおもちゃを持ってきてもらい、壊れた原因や直し方も説明しながら一緒におもちゃを治していくことにより、おもちゃというモノやモノの大切さなどを伝えていく。同時にスタッフも修理技術はもちろん、子どもに伝えていくという能力も磨いていき、ひとやモノに愛着を持てるようになってもらう。		
団体の活動 プロフィール	学生や社会人のボランティアスタッフが子どもと一緒におもちゃを治していく事によりモノの大切さなどを伝えている。定期開院(東山青少年活動センター)を中心に活動しており、依頼があれば出張をすることもある。 活動履歴 1999年 6月 「おもちゃの病院」立ち上げ 【定期開院】 1999年 6月～2002年 4月現在 毎月一回 第2土曜日に開院 【出張開院(一部)】 2000年 12月 子どもみらい館 開館一周年記念イベント 2001年 5月 京都市消費者まつり・ 9月 北青少年活動センター地域ふれあいまつり 2000年 11月 子育て交流ひろば2001 御室保育所まつり 2000年 11月 ボランティアまつり 2002年 3月 出張開院(はじまる・はぐくむ・こどものひろば)		
財 政	活動事業費 (平成13年度)	43,408 円	

〔政策提言の内容〕

* 政策分野・手段の番号は参考資料をもとにお書きください。

政策のテーマ	教育の場での「理論」と「実践」の融合		
政策の分野	番号		環境パートナーシップ
政策の手段	番号		・ コーディネート機関の創出と人材育成 ・ 土曜日の学校での場所と時間の割り当て（学校教育との兼ね合い） ・ 出張費の補助金 ・ 相互のネットワークづくり など
政策の目的			
NPO 団体の環境教育実践を提供 + 教師の環境教育理論の提供 + 学校という「場」 = 教育の場での「理論」と「実践」の融合を目指す。 本政策により、教育の主たる場である学校で NPO 団体や行政が相互に交流できるようなものにし、地域に根ざした環境教育を通じ、システムとしての持続可能な社会への移行を市民の側から後押しできるものにしたい。			
提言を行うこととなった背景および現状の問題点			
社会からモノを大事にする心が失われかけているのではないかと、言う問題点から子どもと共におもちゃを治しながら、おもちゃというモノやモノの大切さを伝えてきた。その中で改めて「簡単に治るものもあるのだ」と分かる親御さんも多く、また、モノの大切さは分かっているつもりだが、こういう場を持ってはじめて感じる事が出来ると言う方も多いようだ。子どもの反応としても、治す姿を見て「やりたい」と言う子も少なくない。また、同じように大切さを分かっているが、なかなかそういう事を考える余裕がないというようなことも明らかになってきた。 そこで、教育の場での「学ぶ」場が提供されていない、という問題点を踏まえ、4月からの週5日制に伴って空いてくる時間を活用するなどして、NPO 団体などとの連携の中で出来るだけ広い世代に教育に関わってもらい、地域での実体験としての場をつくっていくべきではないかと考えている。 現在、多くの団体が草の根的に活動し、また、多くの研究機関で環境についての研究がされ、環境を学べる施設も出来ている。しかし、私たちの目から見ると活動の相互理解もなく、バラバラに活動している感じがする。相互に協力できればさらに面白く効果のある活動になる可能性がある。さらに情報の共有によって団体運営の効率化にもなるだろう。市民の視点としても、実際にどうしたら環境に負担が少なくなるのか、環境のために「こうした方がいい」というのは分かっているが行動するまでには至らない、といったもどかしい状態になっていると言える。そこで、私たちの活動の中で感じた現状の問題点や不満などを元に、ソフトウェア的な面についての提案をしようと試みた。			

政策の概要

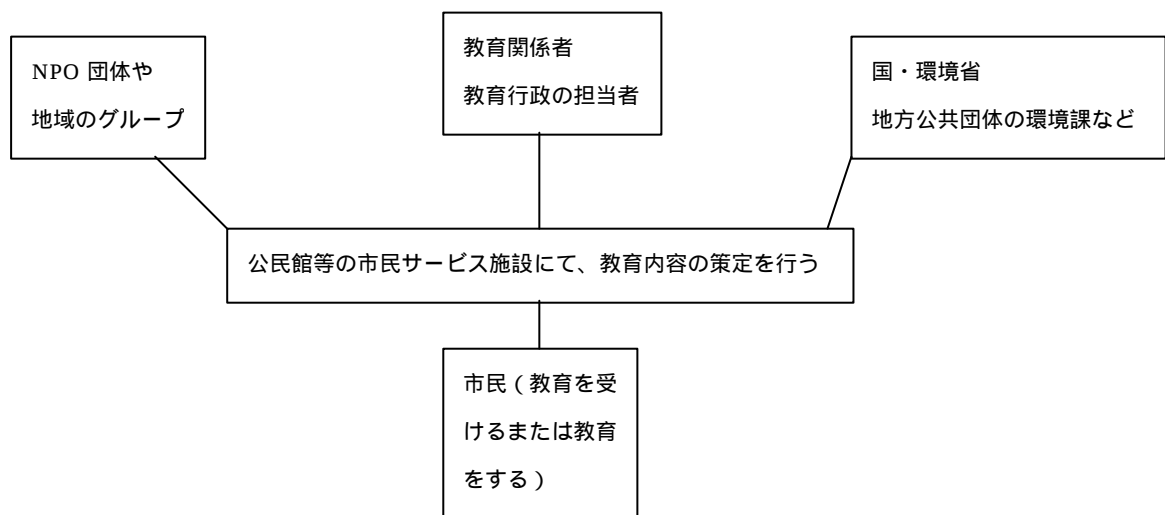
子どもと一緒におもちゃを治すことによってモノの大切さに気づき、大事に長く使ってくれるようにすることが私達おもちゃの病院の目的だが、学校教育では教科書等で環境に関する知識は教えるが、子どもが自主的に学ぶ環境教育の機会は少ないと言ってよい。

したがって、子どもは頭では理解できるが、現実としてもものを大切にしなければいけないということを認識するまでにはいたっていないと思われる。

そこで、環境活動を実践している NPO 団体がその機会をつくることを提案する。

そのために、学校と行政や NPO 団体を含めた様々なグループとの連携を保てるようなネットワークづくりが必要になってくる。また、行政側としても、施設（資料館や図書館、各種市民センター）などのハード面を提供するだけにとどまらず、施設を有効に利用するためのソフト面を充実させるバックアップが必要なので、NPO や学校のコーディネートを務めるような機関の創出をする。さらに、コーディネーターの人材育成にも資格を作る事も視野に入れ、力を入れていく。

政策の実施方法と全体の仕組み（必要に応じてフローチャートをつけてください）



現状では予算と場所の確保という観点から新たな機関を創出するのは難しいと考えられるので、既存の公民館等の市民サービス施設を利用して、NPO と行政のネットワークの拠点をそこに置き、環境教育を専門とする部署を設立する。そこで、教育行政の担当者と環境行政の担当者と環境 NPO の担当者と環境問題に関心のある市民の四者間で協議を行い、教育の中身を共同で創っていくことにする。

中身としては、従来のように一方通行的な講義形式ではなく、子供が参加せずにはいられない状況を作り、遊び感覚で自然に楽しみながら環境のことを考えられるようなものにする。さらに、教える者と教えられる者が双方向的に交流することになるので、互いに学びあっていけるというような効果もある。

しかし、通常の授業内では時間を確保するのが難しい為、4 月からの完全週休二日制を活かせるように、土曜日を利用できるようなものとする。

具体的な例として、私達おもちゃの病院の場合を以下に説明する。 公民館等で話し合いをもち、出張してもらうことが教育上よいと判断された場合、まず、当団体に関する認識を深めてもらうために通常開院日に見学に来てもらって、当団体の使命や役割を説明したあとで、スタッフの指導の下で実際におもちゃを直す作業をしてもらう。そして、日程の調整を行った上で土曜日に学校に出張する。そして、私達の紹介をして壇上で何か一つおもちゃを直すことで子供達の関心を引きつけた上で、何人かのグループに分けて各グループにスタッフがついて、その指導・監督下で実際に直す作業をしてもらうことで、体で壊れたものを直すというプロセスを覚えてもらう。その作業の際には、楽しいという雰囲気づくりに努めて直すこと自体が楽しいと子供に思わせるようにする。そうやって自主的に取り組めるように仕向けることで、モノに愛着を持ち、何かを捨てるときにも、ちょっと「直せるものかも？」と考えられるようにしたい。 さらに、出来れば保護者にも見学に来てもらい、子供が家でも直す時に気をつけるべき点などをスタッフから説明してもらって、家庭で事故が起こらないように安全面にも配慮する。
政策の実施主体 （提携・協力主体があればお書きください） ・ 環境行政機関（環境省、地方自治体環境課等） ・ 教育行政機関（文部科学省、地方自治体教育委員会等） ・ 環境団体に取り組んでいる NPO 団体 ・ 環境に興味のある市民 など。
政策の実施により期待される効果 この政策によって、各団体や行政機関などの相互理解が深まり、より幅の広い教育内容や方法を試す事が出来るだろう。また、各団体が何を望んでいるか、どんな問題を抱えているかを相互に知ることが出来るので、団体運営の拠り所になると同時に情報の共有によって無駄を省くことも出来る。 機関の創出に伴いコーディネーターの育成がなされ、生涯教育・社会教育の面からも効果があると考えて良いだろう。また、環境関連・環境教育で働きたいというニーズに応える雇用の創出にもなる。 さらに、地域の市民サービス施設を使用することから地域の問題に即したコーディネートが出来うる。 市民の側としては、子どもだけでなく親も一緒にモノについて今一度考えるようになって、壊れたモノを楽しんで修理し、愛着を持って使うことが出来るようになれば、モノを選ぶ時にも考えるようになるし、捨てる時に「ちょっと待てよ」と考えることが出来るようになる。 ひいては大きな目的である持続可能な社会の実現にむけて、草の根的な、しかし大きい市民の側からの動きになればよいだろう。 また私達おもちゃの病院としてもおもちゃと一緒に治した事でその子どもが大きくなった時にこういったボランティア活動などに興味を持ち、参加してもらえれば嬉しい限りである。
パンフレット等添付資料名 ・ 広報用チラシ ・ おもちゃの病院カルテのフォーマット ・ 京都市東山青少年活動センターのパンフレット